



IoT時代にふさわしい鍵づくりが 安全・安心で快適な暮らしにつながる

1945(昭和20)年、東京都大森区(現大田区)で小さな町工場からスタートした美和ロック株式会社。自社で開発したセキュリティに優れた鍵が高く評価され、高度経済成長期の住宅供給もあって、1973(昭和48)年頃には建築用錠前の生産・販売において国内のトップシェアを占めるようになりました。現在も高い技術と信頼性から、国内のみならず、世界約50カ国で流通展開しています。今回は、会社の成り立ちやものづくりへの思い、そしてIoT時代に対応したスマートフォンアプリ製品について、和氣英雄社長にお話をうかがいました。

市場のニーズを先取りし 「MIWA」ブランドを確立

当社は私の祖父である和氣一郎が始めた会社です。祖父はエンジニアで、母体となる会社は1935(昭和10)年からありました。戦争中は軍の指示で鉄砲の玉を作り、戦禍が厳しくなると疎開命令で三重県に移り、そこが当社の工場の創業地となっています。移ってすぐに終戦を迎え、家族経営の小さな町工場でしたが地元の方たちから資本金としてお金を工面していただき、雇った多くの社員とともに再出発しました。そういったご縁から、「美しい人の和」を大切にという思いを込めて、社名を五十鈴兵器から美和産業に変えました。

当初は農機具などいろいろなものを作ったようですが、1950(昭和25)年頃に日本銀行から現金を運ぶ木箱の封印錠の注文を受け、それがきっかけとなり祖父は錠前に打ち込み始めます。日本がこれから復興しようという時代、新しい住宅の建設が始まり、良質な住宅を供給するために、防犯に対する意識が低かった日本でそれに見合う建築用の錠前を設計・開発しました。当時の日本の玄関錠は内側からボタンを押すと握り玉が動かなくなる押しボタン式が大半でしたが、それでは簡易的すぎるため、握り玉の真ん中に鍵穴を付けてかんぬきが出る「本締付モノロック」を開発。これがセキュリティ面で高く評価され、錠前の複雑さや、自社で金型工場をもって生産性と精度を確保できることも認められたため、公団



住宅に採用され、徐々に売上也増えていきました。

時代や住宅の変化とともに商品の種類も増え、1974(昭和49)年には電気錠を開発しました。その後、住宅用では防犯プラス快適性を重視し、鍵を持ち歩かなくてもいい暗証番号タイプが好評でした。

時代に即した鍵づくりを展開

今は何でもインターネットで繋がる時代です。鍵もさらに進化して、2017(平成29)年には電気錠ワイヤレスリモート制御システム「wiremo」を発売しました。外出先でも、インターネット経由でスマホのアプリから施錠確認や遠隔ロックができ、さらに、お子さんの帰宅をスマホに通知したり、遠く離れて住んでいるお年寄りの安全を確

認することもできます。このように、鍵を通じてご家族の安全と安心によりいっ

そう寄与していきたいと思っています。

新築用だけでなく、既存の玄関扉に簡単に取り付けられる電池式の電気錠も今年発売しました。Bluetoothでインターネットにつなぐこともできますので、今後さらに展開していく予定です。

鍵の情報伝達の役割がスマホやカード、指紋などに代わってきていますが、当社の電気錠には必ず鍵穴が付いています。快適性と安心の両方をもつていただくためにも、最新システムとともに今後も従来からの鍵のあり方を大切にしていきたいです。



電気錠ワイヤレスリモート制御システム「wiremo」(ワイレモ) スマホアプリで施錠確認や遠隔施錠ができる



美和ロック株式会社

<https://www.miwa-lock.co.jp>

高性能シリンダーや多種多様な電気錠、災害時を想定したプッシュオープンバーなども取り扱っています。

- 東京本社
東京都港区芝3-1-12 TEL: 0570-78-3069 FAX: 03-3455-2437
- ショールーム
東京本社2階のショールームに商品を多数展示しております。
ご利用時間: 10:00~12:00 13:00~17:00 (土日祝は休館)
TEL: 0570-78-3069

